

上野公園グランドデザイン検討会報告書

平成20年9月

上野公園グランドデザイン検討会

目次

序章 上野公園グランデザインのねらい	1
1. 背景	2
2. 目的	2
3. 検討の対象範囲	3
4. 検討の視点とねらい	4
第1章 上野公園の現状と特性	5
1. 上野公園の歴史	6
2. 上野公園及び周辺地域の現状と特性	10
第2章 上野公園の将来像	17
1. 上野公園の将来像	18
2. 「文化の森」の創造に向けた基本的考え方	20
3. 連携の重要性	24
第3章 「文化の森」の創造に向けた施策	25
1. 世界に向けた『文化』の発信強化	26
2. 魅力あるみどりと水の空間創出	28
3. 快適な利用の推進	30
第4章 「文化の森」の創造に向けた上野公園の整備イメージ	33
1. 上野公園の整備イメージ	34
2. 上野公園のエリア別整備イメージ	37
第5章 提言の実現に向けて	45
提言の実現に向けて	46

序章
上野公園ランドデザインのねらい

1. 背景

○ 上野公園^{*}の文化と歴史

上野公園は、上野の山と呼ばれる台地と不忍池からなり、寛永寺の創建以降約 400 年の長い歴史と伝統の上に築かれている。

上野公園には、桜の名所や不忍池等に代表される個性豊かなみどりや水辺景観が形成され、都民の貴重な憩いの場となっている。寛永寺清水堂をはじめ江戸時代の建造物や史跡等の歴史的資源に恵まれるとともに、日本を代表する世界有数の博物館や美術館、動物園など多くの文化施設が集積し、日本の文化・芸術の中心として、また、東京を代表する観光地として、つねに国内外からの来訪者で賑わいをみせている。 註 本書では、都市計画上野公園の区域のうち谷中霊園地区を除くエリアを「上野公園」という。

○ 都市観光の隆盛

近年、世界各国において観光が重要な産業として位置づけられ、経済の活性化のみならず、国や地域を越えた人々の交流による国際的な相互理解を促進し、世界の平和と発展にきわめて多くの役割を果たすようになってきている。

それに伴い、様々な都市において、文化・芸術をテーマとした都市開発や大規模イベント開催による国際文化交流、観光客誘致等が盛んになっている。東京でも、六本木等において都市の再開発等にあわせて新たに誕生した複数の美術館が連携し、文化・芸術をテーマに、飲食・ショッピングを含めたまちを活性化させる取組が行われている。

○ 世界のモデルとなる成熟した都市東京

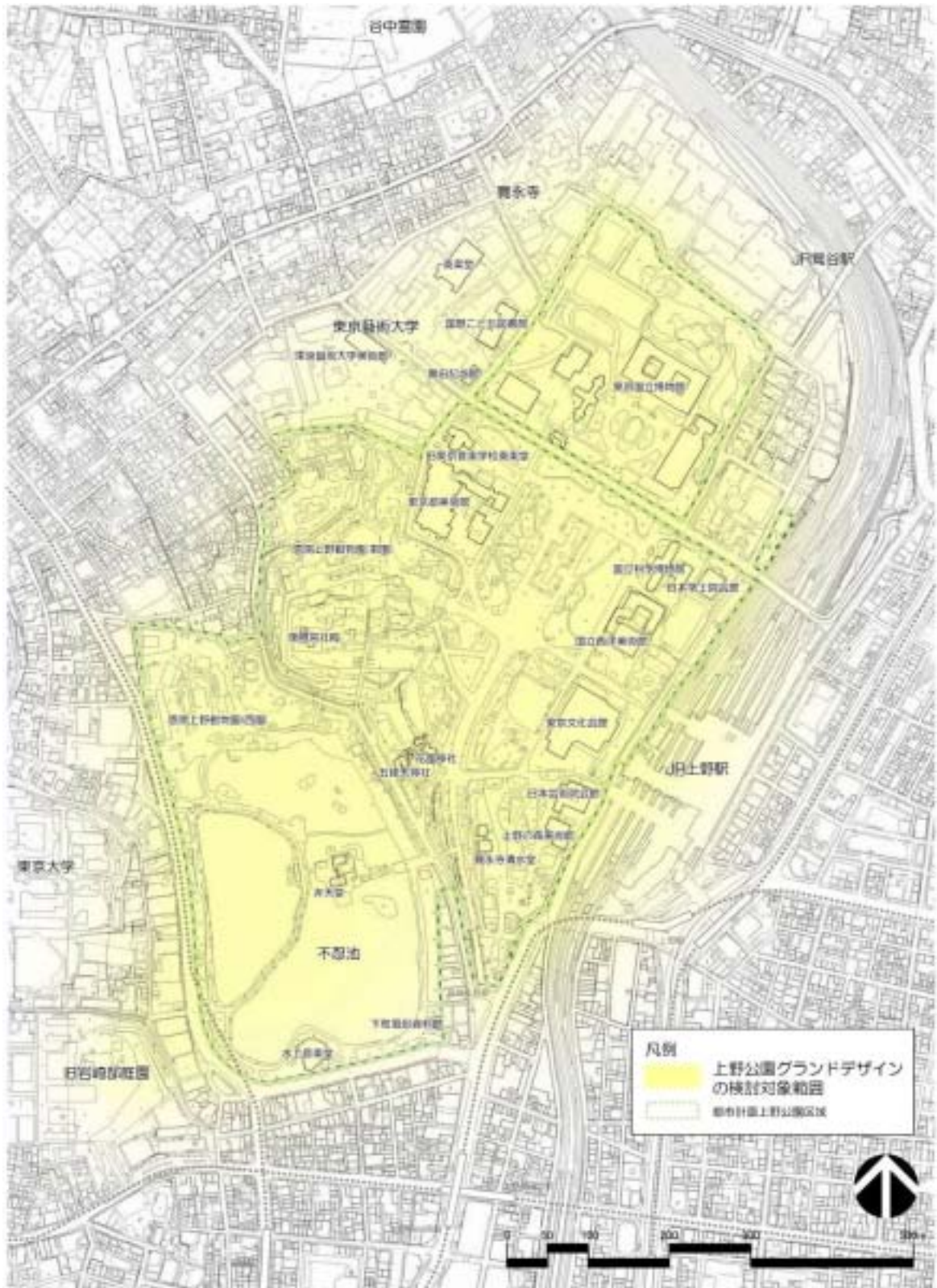
21 世紀は、大都市のあり方そのものが国の命運を左右し、地球の未来を決定する「都市の世紀」と言われている。東京は成長のステージを経て成熟を遂げようとしており、さらに機能的で魅力的な都市につくり変える先進的な取組により、21 世紀の新しい都市モデルを世界へ発信し、諸外国との交流や連携を深め、これにより、日本の再生だけでなく世界の平和と繁栄を築いていくことが期待されている。そこで、東京都は、平成 18 年度に「10 年後の東京」を策定し、2016 年のオリンピック開催を視野に入れ、東京の目指すべき姿と、それに向けた政策展開の方向性を示す都市戦略を明らかにした。その中で、上野公園は、芸術・文化、みどり、景観、観光等の面において重要な役割が期待され、文化の森としての再生が求められている。

2. 目的

上記の背景から、上野公園では、江戸、明治から受け継がれてきた独自の伝統や歴史・文化資源、みどりと水の魅力、さらには、我が国を代表する文化施設の集積という高いポテンシャルを活かし、世界に文化・芸術を発信する日本の顔として、国際的にも確固たる地位を築くことが求められている。上野公園グランドデザインは、上野公園の将来像を明確にするとともに、将来像を実現するための方向性と基本施策等を示すことを目的とする。また、上野公園に関わる全ての関係機関が、共通認識の下に、長期的な視点に立った事業の展開を図ることができる総合的な構想とする。

3. 検討の対象範囲

上野公園グランドデザインの検討対象範囲は、都市計画上野公園（谷中霊園を除く）を中心とし、寛永寺、東京藝術大学、旧岩崎邸庭園、J R上野駅等、周辺を含む地域についても検討対象とした。



上野公園グランドデザインの検討対象範囲

4. 検討の視点とねらい

上野公園グランドデザインでは、上野公園の現状や特性を整理し、上野公園の将来像やそれを実現するための施策の方向や可能性について検討を行った。検討に当たっては、歴史、自然環境、都市観光、首都東京の文化・芸術の発信拠点といった視点、さらには、上野公園を訪れる外国人や高齢者等多様な利用者の観点から、総合的にそのあり方について検討した。

上野公園グランドデザインは、これらの検討を踏まえ、長期的な視点に立って上野公園の将来像を示すとともに、概ね10年後を見据えた具体的取組の方向性を提言するものである。

第1章 上野公園の現状と特性

1. 上野公園の歴史

上野の台地は武蔵野台地の東端にあたり、古代より人々の生活の場となっていた。江戸時代には、上野の山全域において東叡山寛永寺の造営が始まり境内が公開されると、上野の山は花見の名所として、不忍池は蓮の名所として賑わいを見せた。戊辰戦争により荒廃した上野の山は、太政官布達により日本で最初の公園のひとつになった。日本で最初の博覧会である第1回内国勸業博覧会が開かれ、美術館・博物館・動物園などの文化施設が集積する今日の上野公園を形づくってきた。

表 1-1: 上野公園関連年表 (1/2)

時代(年代)	主な出来事			世の中の出来事
		施設の建立等に関する内容	催事・行事に関する内容	
~江戸時代	<ul style="list-style-type: none"> 氷河期以降: 上野の台地は、東京湾に突出した半島であり、今の不忍池あたりの低地部は東京湾の入江で、奥まで海水が湾入し、日暮里や田端の裾は東京湾の波が岸を洗っていた。 縄文時代には、上野の縄文人は、上野・谷中の台地に住み、石器でイノシシやシカを狩り、魚介類を取り、ドングリ、トチ等の木の実を森に採りに行き、それらを食料として暮らしていた。 弥生時代になると、台地に挟まれた低湿地や入江で、水田耕作が始まり、集落がつくられる。 室町時代には、太田道灌が江戸城を築く。上野の地は中世以降、忍の岡、或いは忍の森と呼ばれ、武蔵野における歌枕となり、名勝の地として多くの歌に詠われていた。 			
寛永 2年	1625		「東叡山寛永寺」創建。(図 1-1)	1603年 江戸幕府開幕
寛永 8年	1631		「五重塔」奉納。	
寛永年間			天海僧正、京都滋賀の名所を上野に写し替える。水谷伊勢守、不忍池に中島を築き、「弁天堂」をつくる。	
寛文 6年 又は9年	1666		柏木大助の願い入れて、「時の鐘」が建立される。	
元禄 11年	1698	一般江戸庶民の花見が許されるようになる。(図 1-2)	「根本中堂・瑠璃殿」完成	
	12年	1699	2月 茶屋の設置が許可される。(図 1-3)	
明治 元年	1868	上野山内の管理を「大蔵省会計官」より「東京府」に移管。上野山内に大学東校の病院を建設しようとする計画がおきる(文部省)。	「清水堂」、「山王社」、「時の鐘」、「忍岡稲荷」、「大仏殿」、「慈眼堂」、「東照宮」、「五重塔」を残し、全て焼失し、廃墟と化する。	1868年 戊辰戦争
6年	1873	1月 太政官布達第拾六号により、上野山一帯を公園と選定する旨、通達がなされる。	「黒門」が、袴腰から「東照宮鳥居」脇に移される。 10月 廃絶していた忍岡稲荷社が「花園稲荷」として再建される。	
	8年	1875	上野山内に加え不忍池も公園地として併合、府下一の公園となる。	山王台に「彰義隊墓碑」が建立される。
	9年	1876	1月「東京府」から「内務省博物館」に移管。上野公園は、博物館所属の公園地となる。 1月 寛永寺領の諸院、徳川家墓所などが公園地から外れる。	4月「上野精養軒」開業 7月 大仏の下に、不忍池を一望できる「勝覧所」ができる。 5月 上野公園開園式(天皇皇后の行幸啓)。
	10年	1877		「教育博物館」(国立科学博物館の前身)竣工(現・東京芸大の地) 8月 第1回内国勸業博覧会。(図 1-5)
	12年	1879	8月 前米国大統領グラント将軍の訪日歓迎会が開催される。(タイサンボクとロソルヒノを植樹する。)	
	15年	1882	新橋 上野広小路間に馬車鉄道開通	3月「文部省博物館」(東京国立博物館の前身)開館 3月「上野動物園」を元寒松院跡の清水谷に開く。
	17年	1884	7月「上野馬車駅舎本館落成式	11月 上野共同競馬場落成
	20年	1887		12月 図面取調掛は東京美術学校と改称し、現在地に移転

* (財)東京都公園協会「上野公園ものがたり」(平成8年)を基に加筆



図 1-1: 歌川広重画「東都名所上野東叡山全図」(個人蔵) 上野の山全体が寛永寺の境内であった様子がうかがえる。



図 1-2: 「江戸風俗図巻・上野の図」(The British Museum) 上野寛永寺における花見の景。

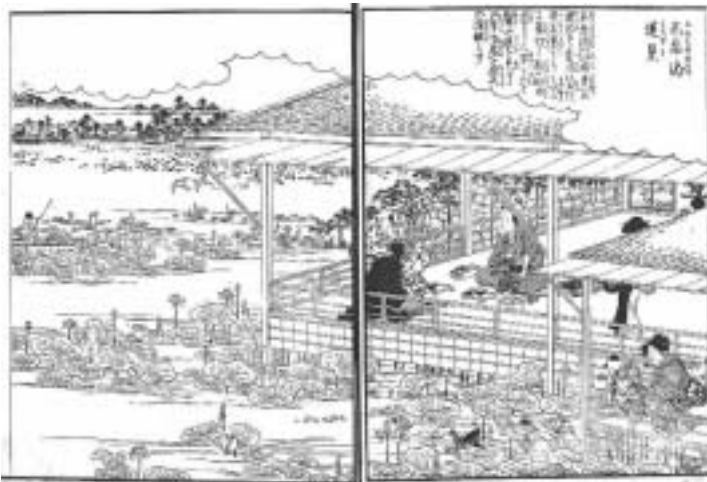


図 1-3: 「江戸名所図会」 不忍池の蓮見茶屋の様子。



図 1-4: 歌川広重画「名所江戸百景 上野清水堂 不忍ノ池」(個人蔵) 清水観音堂から不忍池方面を見た様子。

表 1-2: 上野公園関連年表 (2/2)

時代(年代)		主な出来事	世の中での出来事	
			施設の建立等に関する内容	催事・行事に関する内容
明治	23年 1890	公園地は帝室「御料地」となり、宮内庁の管理下におかれる。(大正13年1月26日まで)	5月「奏楽堂」落成。 5月 明治20年に、東京音楽学校と改称し、現在地に移転	1894年 日清戦争
	31年 1898		12月「西郷隆盛像」除幕式	
	35年 1902		3月「帝室博物館」開館式披露	1904年 日露戦争
	42年 1909		2月「東京帝室博物館・表慶館」開館	
大正	3年 1914			3月 東京大正博覧会 (図1-6)
	5年 1916		4月 公園南入口にあった「三橋」を取り壊し、忍川が暗渠となる。	1914年 第1次世界大戦参戦
	12年 1923	市民50万人が上野公園に避難する。		1923年 関東大震災
	13年 1924	1月 公園地が東京市に下賜され、「上野恩賜公園」となる。		
	14年 1925	上野駅の公園口ができる。		
	15年 1926		5月「東京府美術館」開館	
昭和	2年 1927	上野-浅草間に地下鉄開通。		4月 大正歴史博覧会。
	5年 1930	1月 上野-万世橋間に地下鉄開通。	3月「上野図書館」新館落成。	
	6年 1931		3月「不忍池ボート場」開業。 11月「東京科学博物館」開館。	
	7年 1932	4月「国鉄上野駅舎」落成。		
	8年 1933	12月「京成電鉄上野地下駅」竣工。		
	21年 1946	戦災者救済会により、不忍池(蓮池)の水を落とし、水田とする。「上野田圃」と呼ばれた。		1941年 太平洋戦争開戦 1945年 東京大空襲 同 8月15日 終戦 1946年 日本国憲法発布
	23年 1948	3月 上野鐘声会が「初咲き匂う上野の山」の復興を願って、1250本の桜を植樹する。		4月 グランド將軍植樹70周年記念祭 さくら祭
	27年 1952		「上野植物園」拡張整備。 「東京科学博物館」が廃止となり、「国立科学博物館」が設置される。 西郷隆盛像下に戦後処理施設として「上野百貨店」が建設される。	
	28年 1953	竹の台周辺整備開始	4月「水上音楽堂」竣工。	1956年 都市公園法公布
	33年 1958	上野公園とその周辺に約500灯の水銀灯が新設される。	「弁天堂」落成。	
	34年 1959	3月 公園の夜間開放が許可。	6月「国立西洋美術館」開館	
	36年 1961		4月「東京文化会館」開館 11月「上野研修センター」新築 「上野植物園」に「いそづけ橋」が設置され、台上の東園と不忍池畔の西園を結ぶ。	
	37年 1962	5月 竹の台噴水テラス沈床芝生完成 (図1-8)		1964年 東京オリンピック開催
	40年 1965	「東照宮」が国の重要文化財に指定		
	43年 1968	4月 明治100年記念桜植樹		1970年 日本万国博覧会 (大阪万博)開催
	47年 1972	10月 上野植物園にバンダが到着する。	04月「上野の森美術館」開館	1972年 札幌オリンピック開催
	48年 1973		10月 開園100年記念「ボードウィン顕彰碑」建立。	
	50年 1975		9月「東京都美術館」新館開館	1975年 沖縄毎日博覧会開催
	51年 1976	7月「京成上野駅」改良工事竣工。		
	54年 1979		11月「国立西洋美術館新館」開館	11月 日中友好記念植樹式
	55年 1980		10月「下町風俗資料館」開館	1985年 筑波万博開催
	62年 1987		3月「東京芸術大学日奏楽堂」移築復原	
	63年 1988		6月「水上音楽堂」改築竣工。	1995年 阪神・淡路大震災
平成	9年 1997		12月「国立西洋美術館企画展示館」竣工。	
	10年 1998		3月「東京芸術大学奏楽堂」竣工。	
	11年 1999		東京芸術大学大学美術館開館 10月「東京国立博物館平成館」開館	1998年 長野オリンピック開催
	12年 2000	10月「バンダ橋」竣工。		
	13年 2001	10月 旧岩崎邸庭園開園		2005年 愛知万博開催
	18年 2006		10月 新ボードウィン博士像建立	



図 1-5:「上野公園地内国勧業博覧会開業図」(個人蔵) 第 1 回内国勧業博覧会の様子。



図 1-6:「東京大正博覧会のポスター」(個人蔵) 東京大正博覧会場の様子。



図 1-7:昭和 37 年以前の東京国立博物館前の様子。



図 1-8:現在の東京国立博物館前と竹の台噴水の様子。

2. 上野公園及び周辺地域の現状と特性

上野公園の将来像を検討するため、公園管理者や文化施設管理者などによる現状分析と、これまでに寄せられた来訪者の意見や要望を参考にし、上野公園と周辺地域が有する現状と特性を以下に示した。

① 豊富な歴史資源

上野の山と呼ばれる台地は、江戸寛永年間に寛永寺の境内地となり、大伽藍が建設された。その後元禄期以降に、桜ヶ岡が花見の場所として公開されると、桜の名所として賑わいを見せるようになった。また、不忍池は江戸随一の蓮の名所として賑わい、池畔には茶屋等が建ち並び、上野の山とともに江戸有数の行楽地となった。

上野公園及び周辺地域には、旧寛永寺五重塔や寛永寺清水堂等の重要文化財に指定された建造物がある。最近では、国立科学博物館日本館（旧東京科学博物館本館）が、平成20年6月に、重要文化財に指定された。また、国立西洋美術館本館は、「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の構成遺産のひとつとして、フランス政府等各国共同で世界遺産登録手続きが進められている。春には花見の名所として約200万人の花見客が訪れるほか、牡丹展・さつき展・骨董市・うえの夏まつりが開催される等、下町独自の文化を活かした様々な行事や催事が催されている。

しかし、下記のような課題も指摘されており、来訪者が歴史や文化を感じにくくなっている。

<主な課題>

- 1) 歴史的資源や、かつて見られた歴史的景観が損なわれ、来訪者が歴史や文化を感じにくくなっている。
- 2) 歴史的建造物の保存管理が行き届いていない。
- 3) 下町文化を紹介する魅力ある催し等、ソフト面での施策が不十分である。
- 4) 来訪者への歴史や文化の案内や周知が不十分である。

参考：江戸時代における上野の山とその周辺を示した絵図



◇参考：上野公園及び周辺地域にある主な文化財

国指定	重要文化財	寛永寺清水堂	旧寛永寺五重塔	東照宮社殿
		旧東京帝室博物館本館	表慶館	旧十輪院宝蔵
		旧因州池田屋敷表門	旧東京音楽学校奏楽堂	国立西洋美術館本館
		寛永寺旧本坊表門(黒門)	常憲院靈廟勅額門及び水盤舎	
		旧東京科学博物館本館	旧岩崎家住宅(東京都台東区池之端一丁目)	
都指定	有形文化財 旧跡	天海僧正毛髪塔	慈海僧正墓	了翁禅師塔碑
		虫塚	-	-
台東区	有形文化財(歴史資料)	彰義隊墓碑	-	-
	史跡	藤堂家墓所	-	-



寛永寺清水堂

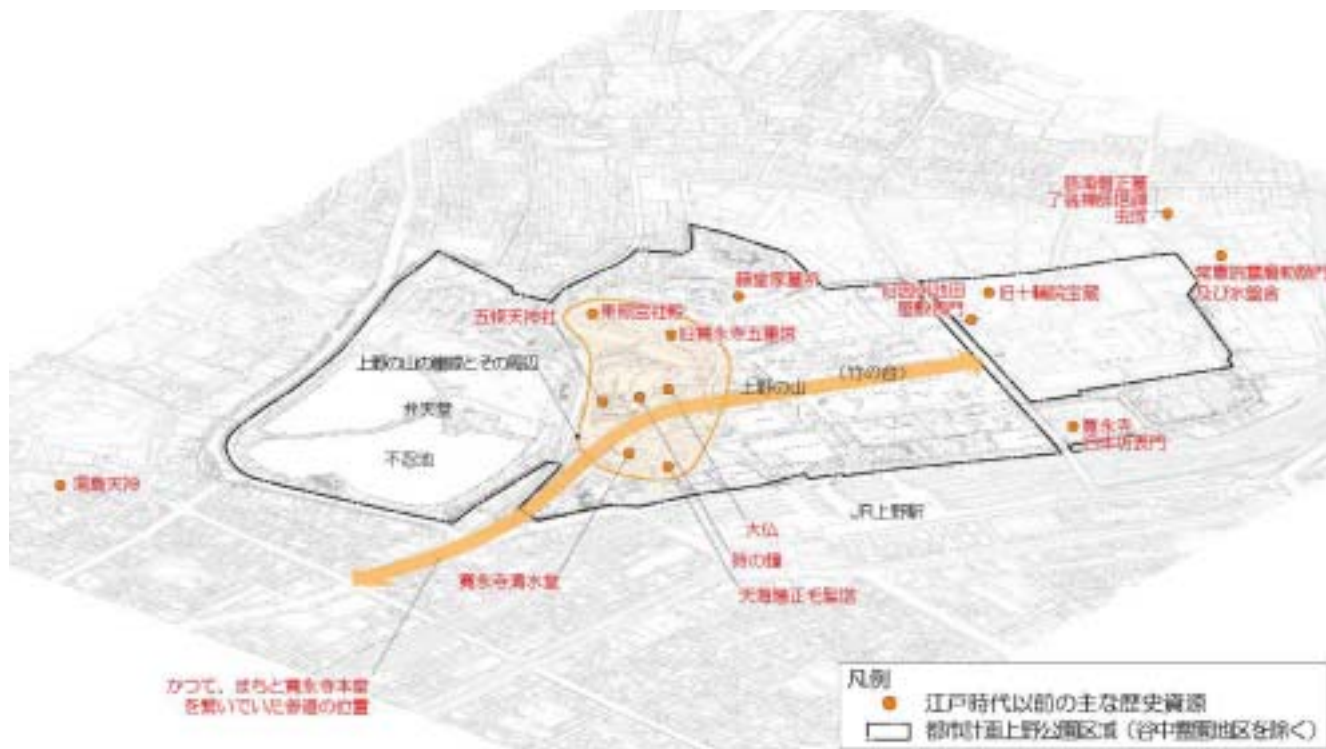


旧寛永寺五重塔



東照宮社殿

◇参考：歴史資源等の分布状況



図：江戸時代以前を起源とする主な歴史資源の分布状況

- ・ 不忍池に面する上野の山の崖線とその周辺に歴史資源が集積している。
- ・ まちと上野の山とを結ぶ旧寛永寺の参道を中心とした当時の地割が現在でも残る。

② 多様な文化施設の集積

明治時代になり、上野公園が開設されると、上野公園一帯は博覧会をはじめとする日本の国家的な文化行事の開催の場となった。その流れを受け継ぐように、博物館（東京国立博物館、国立科学博物館）、美術館（国立西洋美術館、東京都美術館等）、動物園（恩賜上野動物園）等の多様な文化施設が設置され、我が国を代表する文化施設が集積する地区になっている。

これらの文化施設では、質の高い芸術文化に親しむことができる展示・催事等が企画・実施されており、上野公園内の文化施設における年間利用者総数は約 1200 万人となっている。

しかし、下記のような課題も指摘されており、個々の施設の展示や催事は魅力的であるが、地域としての総合的な取組がないため、文化施設の集積効果が活かされていない。

<主な課題>

- 1) 竹の台の噴水池が歩行者の動線を分断しているほか、鬱蒼とした樹林等により文化施設の存在が分かりにくい。
- 2) 各文化施設が柵で囲われ公園との一体感を阻害し、開放的ではない。
- 3) 展示や催しに関する情報が共有されておらず、上野公園全体としての情報発信がなされていない。

◇参考：上野公園及び周辺地域にある主な文化施設

東京国立博物館	恩賜上野動物園	日本学士院会館	横山大観記念館
国立科学博物館	区立下町風俗資料館	国際子ども図書館	旧岩崎邸庭園
国立西洋美術館	上野の森美術館	黒田記念館	
東京都美術館	旧東京音楽学校奏楽堂	東京藝術大学美術館	
東京文化会館	日本芸術院会館	東京藝術大学奏楽堂	



東京国立博物館



国立科学博物館



国立西洋美術館



東京都美術館



東京文化会館



恩賜上野動物園



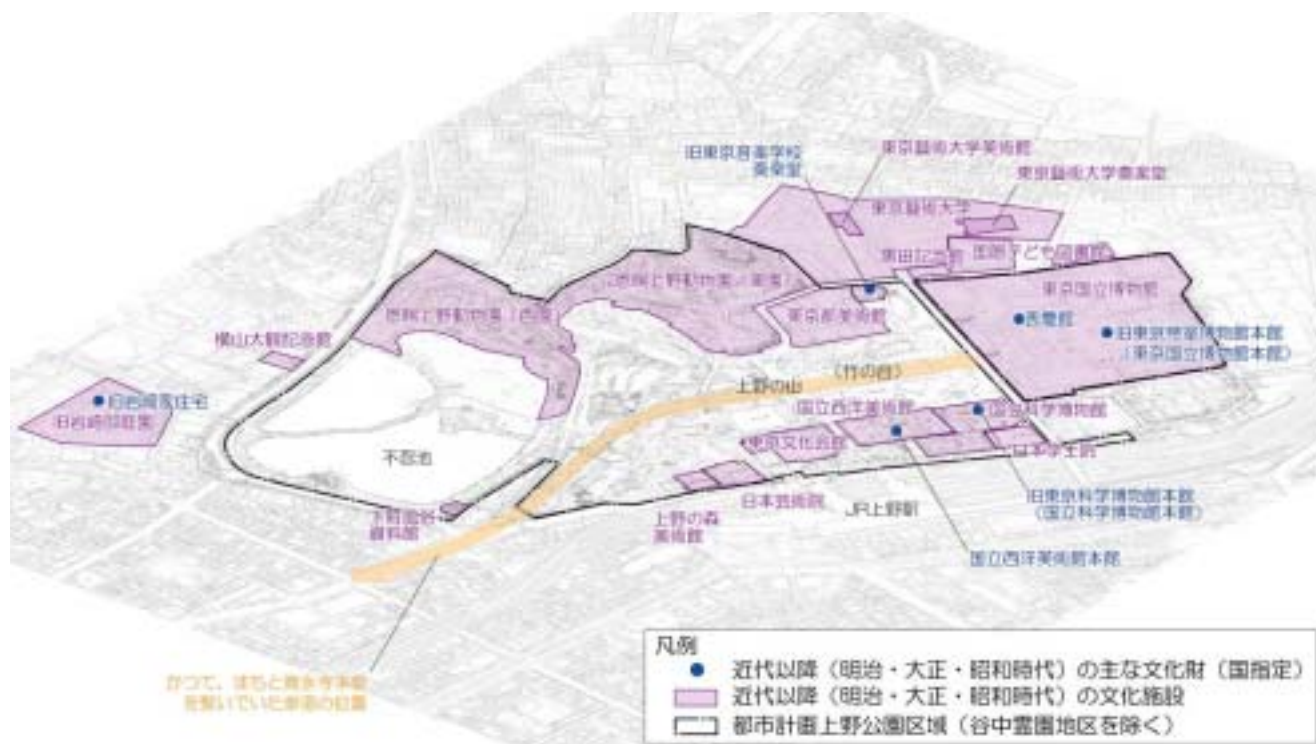
区立下町風俗資料館



上野の森美術館



旧東京音楽学校奏楽堂



図：近代以降（明治・大正・昭和時代）を起源とする主な歴史資源と文化施設の分布状況

- ・上野の山の中心となる竹の台の周辺に文化施設が立地している。
- ・旧寛永寺の参道の延長上に国指定重要文化財である東京国立博物館本館が立地している。

③ 豊かなみどりと水辺空間

江戸時代から、上野の山は花見の名所として親しまれた。不忍池は蓮見・月見・雪見等の景勝地として親しまれ、不忍池周辺には茶屋が建つ等、江戸有数の行楽地であった。

上野公園は、明治に入ると我が国で最初の公園として開設され、現在においても、都心における水とみどりのオアシスとして、蓮や桜の花見の他、散策や野鳥観察等自然とのふれあいの場となっている。また、台地上の園地には桜が並木状に広がり、台地と不忍池の間の崖線には、かつて海辺だった時代の名残と考えられるタブノキが数少ないものの保全されている。時代の経過とともに上野公園の樹林は成長し、都心における貴重で豊かな森を形成してきた。

しかし、下記のような課題も指摘されており、来訪者が豊かなみどりと水辺空間に親しむことができなくなっている。

<主な課題>

- 1) 桜の老木化や蓮の密集により名所としての魅力が低下している。
- 2) 樹木が密生し、暗く鬱蒼とした樹林となっている。
- 3) 来訪者が散策をしたり、くつろぎ憩える場所が少ない。
- 4) 不忍池周辺の建築物の高層化や高密度が進み、かつて不忍池が持っていた広がりのある景観の魅力が稀薄になっている。

◇参考：上野の山と不忍池への眺望



上野の山と不忍池

④ 個性豊かな特色あるまち

上野公園の周辺には寛永寺、湯島天神等の歴史ある社寺をはじめ、国際子ども図書館、東京藝術大学、旧岩崎邸庭園等、我が国を代表する文化施設が立地する。また、上野公園南側には多くの来訪者を集め、活気と賑わいをみせる上野の商店街など大規模商業地が広がり、北側には下町情緒を今に伝える街並みが残されている谷中・根津・千駄木地域がある。このように、多様な街並みや文化を来訪者が享受し楽しめる場所が上野公園の周辺地域には数多くある。

しかし、下記のような課題も指摘されており、来訪者が目的地にスムーズに移動ができない等、公園と周辺のまちとを気軽に行き来できなくなっている。

<主な課題>

- 1) 公園や周辺のまちに、来訪者を誘導する案内やサインが不足している。
- 2) 地形による高低差や長い移動距離が来訪者の負担になっている。
- 3) 上野の山と不忍池の連続性に欠ける。
- 4) 不忍池を一周することができない。

◇参考：上野公園の周辺地域の様子



(左上) 袴腰周辺
(左下) 上野の商店街
(右) 谷中・根津のまち

⑤ 多数の来訪者

上野公園とその周辺地域には、多くの観光客が訪れており、上野公園内の文化施設だけでも、平成18年度には年間利用者総数は約1200万人を超えている。また、国内では都内のみならず全国から人々が訪れ、海外からはアジアをはじめとした各国から来訪するなど、非常に広範囲にわたる地域や国々から訪れるとともに、利用者の年齢層の幅も非常に広がっている。

しかし、下記のような課題も指摘されており、来訪者が安全・安心して、快適に公園を利用することができにくくなっている。

<主な課題>

- 1) JR上野駅公園口と公園が分断され、来訪者は安全で快適に公園にアプローチできない。
- 2) 鬱蒼とした樹林により、夜間、安心して利用できない。
- 3) 車いす対応をはじめとするユニバーサルデザインの導入が立ち遅れている。
- 4) 文化施設や公園施設等に関する情報提供が不十分である。
- 5) 来訪者が、みどりの中で、ゆったりと落ち着いて休憩や食事等を楽しめない。
- 6) ホームレスや違法屋台等により快適な公園利用が損なわれている。

第2章 上野公園の将来像

1. 上野公園の将来像

上野公園の現状と特性を踏まえ、上野公園の将来像を以下に示す。

『日本の顔となる「文化の森」の創造』

～世界に向けて日本の文化・芸術を発信する拠点づくり～

上野公園は、江戸時代に寛永寺が創建された場所であり、以来約400年の長い歴史と伝統の上に築かれている。旧寛永寺五重塔や寛永寺清水堂、不忍池等が江戸の歴史的風情を今に伝えているほか、花見の名所、行楽地として親しまれてきた。

また、上野公園には、明治時代に公園として開設されて以来、我が国を代表する博物館等の文化施設が設置され、国内外の質の高い美術や音楽等を紹介し、芸術面における我が国の地位の向上や発展に大きく貢献してきた。

今日、21世紀を迎えた東京は、成長のステージを経て成熟を遂げようとしており、これまでに蓄積・集積された様々なポテンシャルを最大限に発揮し、日本から世界に向けて質の高い文化や芸術を発信することに取り組むこととしている。これらの取組は、アジアの諸都市などとの交流や連携を深め、互いの発展につながり、ひいては、国際社会における文化・芸術面での日本のプレゼンスを確立することとなる。

このため、上野公園では我が国を代表する美術館・博物館・大学・公園管理者等が協力し一体となって、魅力的な文化・芸術を創造し、世界に発信する拠点づくりに取り組む。さらに上野の山と不忍池を中心にみどりに囲まれた美しい都市景観を再生する。これらにより、世界中から来訪者を迎え入れ、多くの人々が交流し、絶えずにぎわう「文化の森」を創造する。

○ 日本の顔としてふさわしい文化・芸術があふれている

- ・ 上野公園内の文化施設からは、常に質の高い美術や音楽が、紹介、発信されており、日本における文化・芸術活動の拠点として揺るぎない地位を確立している。
- ・ 行政と各種の文化施設及び東京藝術大学等とが連携して取り組むイベントが、文化施設の中だけではなく、公園の広場等屋外空間を利用して一体的に展開されることにより、上野公園全体から世界に向けて文化が発信されている。
- ・ 上野公園や周辺地域に受け継がれてきた、歴史資源や風習、伝統工芸の価値が見直され、江戸の文化が国内外に積極的に発信されている。
- ・ 上野公園内から発信される文化・芸術のイベントが、公園の周辺地域にも波及し、この地域全体が文化性豊かで特色のあるまちとして、世界中に紹介されている。

○ 美しいみどりと水の景観が形成されている

- ・ 大木を中心とした明るい林に文化施設が溶け込み、上野の山全体として良好な景観が形成されている。
- ・ 春は桜の名所として、夏は蓮、秋は紅葉と、四季折々の豊かな表情が楽しめるほか、不忍池及びその周辺において、江戸下町の風情が感じられる空間となっている。
- ・ 不忍池周辺において、景観を保全し、生み育てる社会的気運が醸成され、行政だけではなく都民や企業と協働した取組により、建築物や広告物が調和した街並みが形成されている。

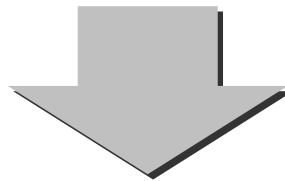
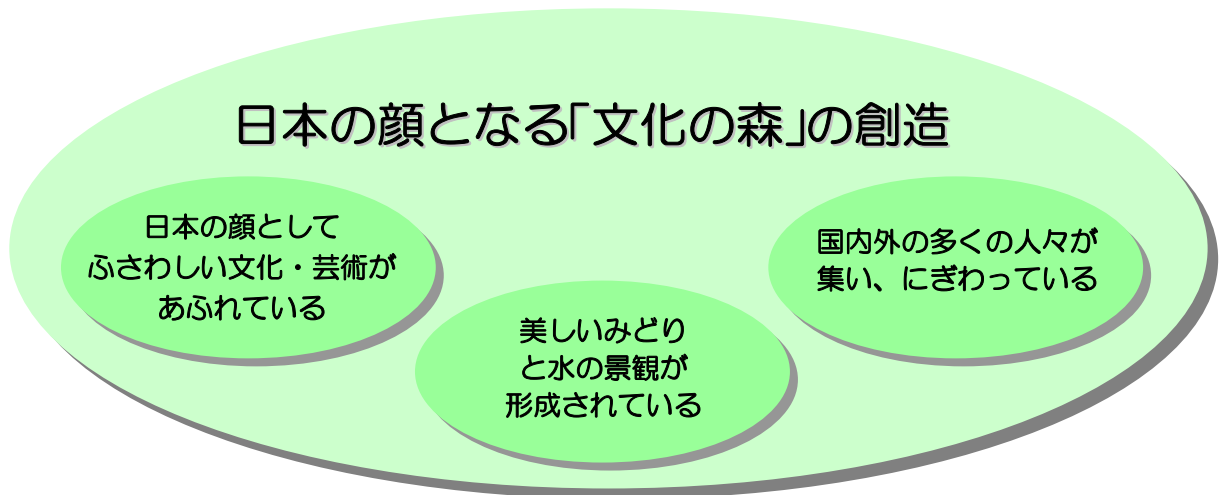
○ 国内外の多くの人々が集い、にぎわっている

- ・ 上野公園には、国内だけでなく、世界中の国からますます多くの人々が訪れ、観光だけではなく、文化・芸術を通じた交流が盛んに行われている。
- ・ 文化施設を訪れた家族連れや団体客等が、広場等において、飲食を楽しめるなど、やすらぎ憩える空間となっている。
- ・ 初めて上野公園を訪れた外国人や観光客など誰もが不自由なく、スムーズに目的地にたどり着けるようになっている。
- ・ 文化施設で開催されている展示の内容やイベント、さらには周辺の街の情報が総合的に発信されている。
- ・ 上野公園の来訪者が、個性豊かで特色ある周辺のまちにも気軽に行き来し、多様な文化を楽しみ、享受するなど、回遊性の高い地域となっている。

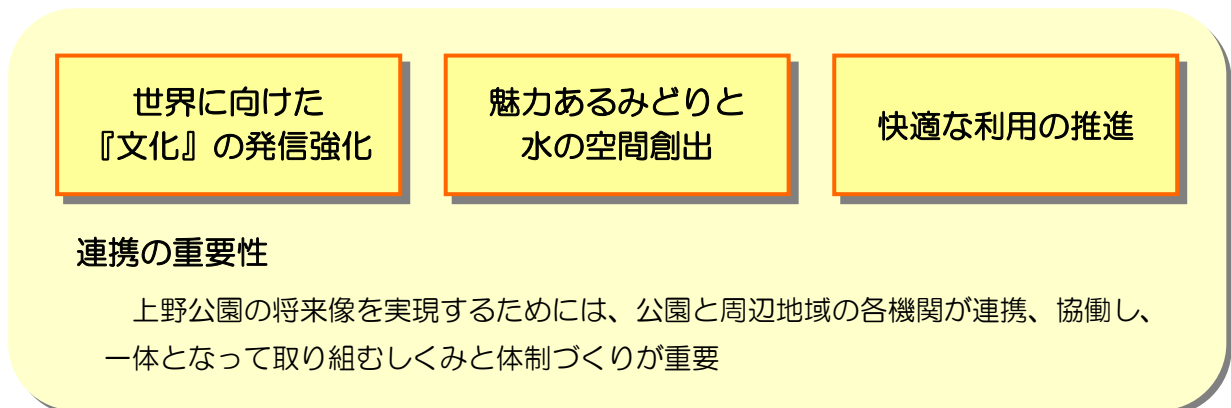
2. 「文化の森」の創造に向けた基本的考え方

上野公園の将来像である「日本の顔となる『文化の森』の創造」に向けた、施策の方向を示す。

< 将来像 >



< 施策の方向 >

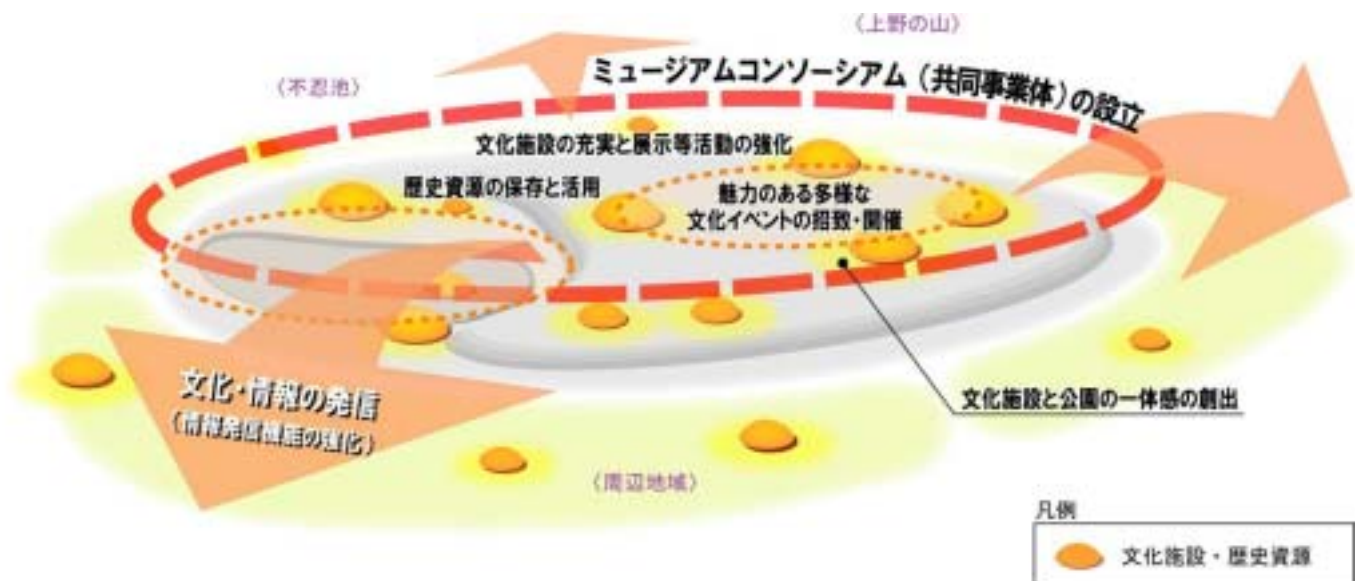


① 世界に向けた『文化』の発信強化

上野公園とその周辺地域には、江戸時代より受け継がれてきた豊富な歴史資源や、我が国を代表する文化施設の集積と個性豊かな特色あるまちがある。これらの特性を活かして、上野に関係する各機関が一丸となり、魅力的で質の高い文化の国内のみならず世界に向けた発信強化に取り組む。

文化施設を中心とした協働体制として、ミュージアムコンソーシアム(共同事業体)を設立し、その主導により、みどりと水の公園空間を最大限に活かした魅力ある多様な文化イベント等の招致・開催を図る。あわせて、「文化の森」を広く伝えていくために、情報発信機能を強化する。

歴史資源は、江戸・東京の歴史を今に伝えるものとして、適切に保存、活用する。文化施設においては、施設の充実と展示等の活動の強化を図る。



「世界に向けた『文化』の発信強化」イメージ

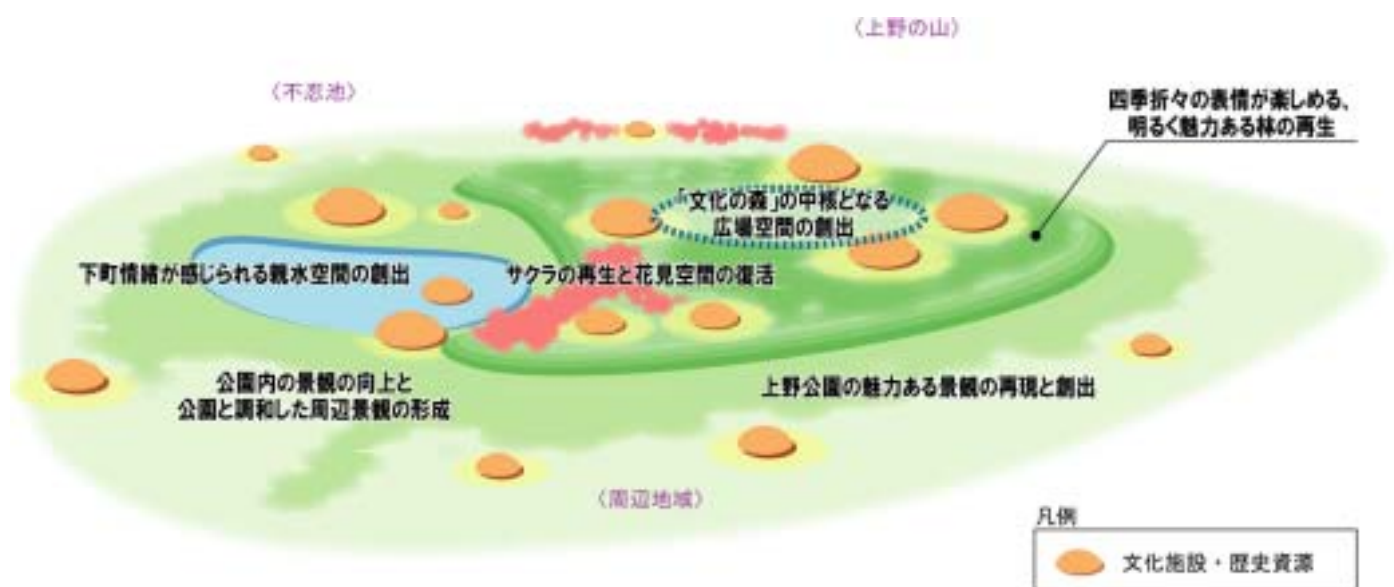
② 魅力あるみどりと水の空間創出

上野の山と不忍池は、江戸時代から景勝地として多くの人々に親しまれ、現在においても、多くの人々が自然とふれあうことができる空間として親しまれている。今後も、上野の山と不忍池を中心に魅力あるみどりと水の空間創出に取り組む。

上野の山は、「文化の森」の中核となる大広場を整備し、来訪者が憩い安らぐことができる明るい魅力ある林を再生する。上野の象徴として親しまれている桜については、江戸の伝統的な花見を体験できる空間の復活、桜の樹勢回復や後継樹の育成を図る。

不忍池畔では、下町情緒が感じられる親水空間を整備するとともに、区立下町風俗資料館や蓮見茶屋等との連携により、下町文化を体感できる催事等の企画・運営を推進する。

公園内の景観の向上に取り組み、特に歴史性を活かした魅力ある景観の再現・創出を図る。周辺地域についても公園と調和した良好な景観の形成を図る。



「魅力あるみどりと水の空間創出」イメージ

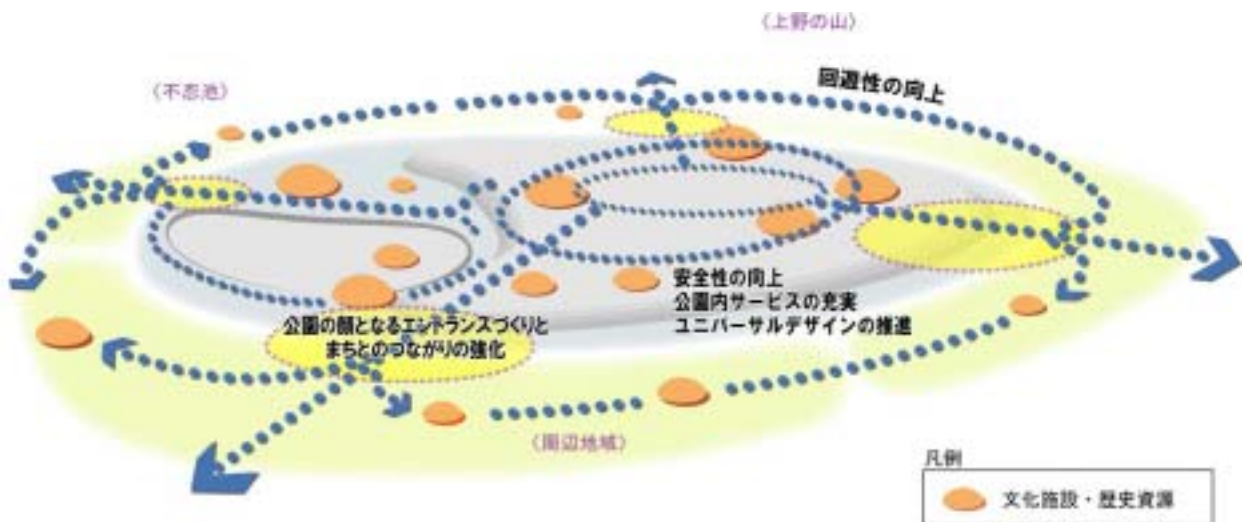
③ 快適な利用の推進

すべての来訪者が公園、文化施設、及び周辺のまちを、安全に安心して、かつ快適に利用することができるよう取り組む。

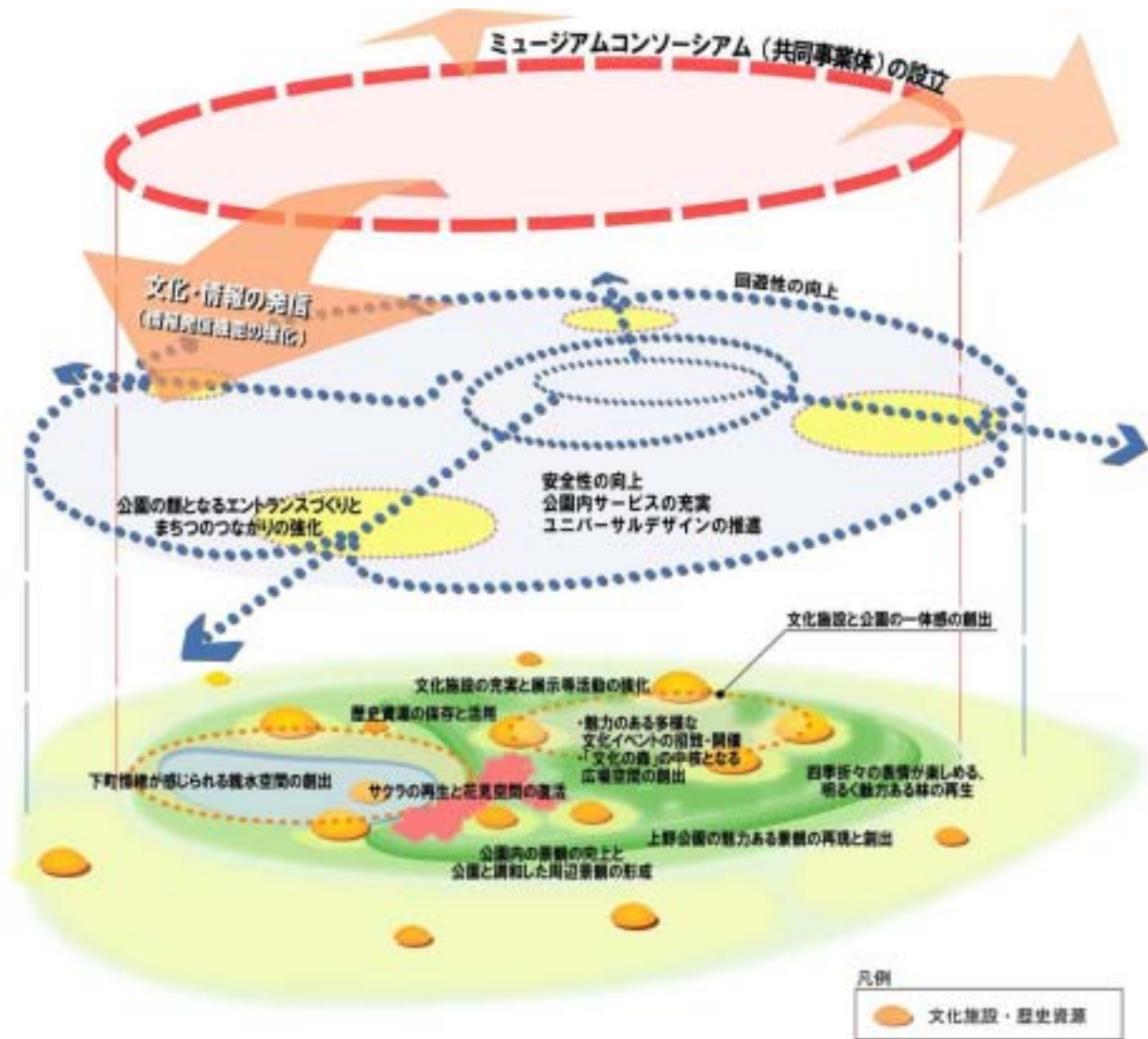
公園の入口部分には、「文化の森」に相応しい風格を備え、来訪者が安全で快適に利用できるエントランス広場を整備する。ユニバーサルデザインの推進やわかりやすいサインの充実などにより、円滑な移動動線を確保する。

公園内では、飲食施設等の公園内サービスの充実、老朽した施設の改善や公園の管理の適正化を推進し、利便性の向上を図る。併せて、災害時の避難場所としての施設整備を行い、防災機能の向上を図る。

また、公園施設の再整備にあたり、環境への負荷低減についても積極的に配慮していく。



「快適な利用の推進」イメージ



上野公園グランドデザイン 施策の方向の全体イメージ

3. 連携の重要性

上野公園には、行政、博物館・美術館等の文化施設、大学、寺社、民間企業等の多様な機関が関わっているが、これまではそれぞれの機関が独自の取組により施設の整備、維持管理、催事やイベントの企画・運営を実施してきた。上野公園は現在も非常に多くの来訪者が訪れる観光地であるが、各機関の独自の取り組みだけでは、おのずと限界がある。世界的に見てもこれほどレベルの高い文化施設が集積している例は少なく、上野公園がさらに発展していくためには、このポテンシャルを最大限に活用することが必要である。そのためには、各機関が連携、協働し、公園全体として様々な施策に取り組んでいくことが重要である。

そして、このような上野公園全体としての取り組みは、上野公園の中にとどまらず、周辺の地域にも広がり、地域全体の発展に寄与する可能性がある。

今後は、上野公園の将来像を実現するため、上野公園と周辺地域の各機関が連携、協働し、一体となって総合的に施策を展開するためのしくみと体制づくりが求められている。

第3章 「文化の森」の創造に向けた施策

本章では、前章で示した、3つの施策の方向別に、「文化の森」の創造に向けた今後おおむね10年間の基本施策とその具体策を示す。

1. 世界に向けた『文化』の発信強化

(1) ミュージアムコンソーシアム（共同事業体）の設立

文化施設の集積を活かした連携による相乗効果を発揮させる組織として、文化施設、大学、行政などで構成するミュージアムコンソーシアムを設立し、魅力ある多様な催し等の企画調整、効果的な情報発信等に取り組む。

< 企画・運営 >

- 「(仮称)上野ミュージアムコンソーシアム(以下、コンソーシアムとする)」の設立
- コンソーシアムが企画する共通テーマによる企画展等の開催
- コンソーシアムが主催する広場や文化施設の前庭等、屋外空間を最大限に利用したコンサートの開催 等

(2) 魅力のある多様な文化イベントの招致・開催

公園が持つ広がりのある空間を活かし、魅力のある多様な文化イベントの招致・開催に向けて取り組む。

< 企画・運営 >

- コンソーシアム等による魅力のある多様な文化イベントの招致
- 区や観光連盟が主体となり、「うえの夏まつり」等既に開催されているイベントの企画をさらに深め、江戸下町文化をテーマとしたイベントを開催 等

(3) 文化施設の充実と展示等活動の強化

文化施設の充実を図るとともに、魅力ある新規企画事業を展開する。

< 環境・施設整備 >

- 東京都美術館の改修
- 恩賜上野動物園の再整備
- 区立下町風俗資料館の体験型展示等機能の充実を検討 等

< 企画・運営 >

- 各文化施設による魅力ある新規企画事業を検討
- 東京藝術大学による彫刻など芸術作品の園内展示や、文化施設による施設の屋外空間でのミニコンサート等の開催
- 区と観光連盟が中心となり、不忍池畔の区立下町風俗資料館と蓮見茶屋等との連携による江戸下町文化が体感できる催事等の開催 等

(4) 文化施設と公園の一体感の創出

文化施設の敷地境界部を改善するなど魅力ある空間づくりを進め、文化施設と公園が一体となった空間を創出する。

<環境・施設整備>

- 東京都美術館の出入口の新設やアプローチの改善により来訪者がより利用しやすい動線を整備
- 各文化施設の敷地境界部にあるフェンスや塀等の改善策を検討
- 恩賜上野動物園の魅力を高める正門周辺の整備 等

(5) 歴史資源の保存と活用

寛永寺清水堂、旧寛永寺五重塔等の文化財、文化的価値を有する明治以降の建造物、上野の歴史を伝える記念碑等を適切に保存・活用し、良好な状態で利用者に公開する。

<環境・施設整備>

- 重要文化財に指定された歴史的建造物等の所有者による適切な保存
- 三橋の遺構等の歴史資源の展示策について検討 等

<企画・運営>

- 重要文化財など歴史的建造物などを巡る散策ルートを設定・周知を検討
- 歴史資源を巡る歴史探訪ガイドツアー等の企画・運営を拡充
- 区や西洋美術館が中心となり、世界遺産への登録候補となっている国立西洋美術館本館を文化遺産として積極的にPR
- 歴史的建造物のライトアップなどによる新たな魅力の創出
- 動物園内の旧寛永寺五重塔が園外からも良く見えるようにするとともに、積極的にPR 等

(6) 情報発信機能の強化

文化施設や周辺地域等、上野地域全体が連携し、「文化の森」の情報を総合的に発信する仕組みを構築する。

<環境・施設整備>

- コンソーシアムによる企画展の内容などを案内する合同掲示板等の検討 等

<企画・運営>

- コンソーシアムによるホームページ運営や複数の外国語に対応するパンフレット等の作成による情報発信 等

2. 魅力あるみどりと水の空間創出

(1) 「文化の森」の中核となる広場空間の創出

豊かなみどりに囲まれ、来園者がくつろぎ、安らぎを覚える「文化の森」の中核となる大広場を整備する。

< 環境・施設整備 >

- 魅力のある多様な文化イベントの開催に対応できる広場及び各種設備の整備
- 屋外で気軽に飲食を楽しめるとともに、それらの姿が絵になるようなオープンカフェ等の導入を検討
- 水景施設の規模・形状についての検討と整備 等

< 企画・運営 >

- コンソーシアム等による魅力のある多様な文化イベントの招致（再掲） 等

(2) 四季折々の表情が楽しめる、明るく魅力ある林の再生

花や紅葉、新緑など四季の変化を楽しめ、来訪者が憩い、安らぐことのできる、明るく魅力ある林に再生する。

< 環境・施設整備 >

- 支障木の整理や適切な管理によるエリアを特徴づける樹林地の育成
- 「文化の森」の中核となる大広場周辺の樹林は、広場と一体となり、憩い安らぐことのできる魅力ある大木中心の明るい林を創出
- 崖線の樹林は、適正な管理と育成により常緑の樹林地として保全
- いつ来ても、どこかで上野の四季を楽しめる花とみどりの名所づくりを推進 等

< 企画・運営 >

- 四季の変化を演出する花木や草本などの見ごろ情報の発信を拡充 等

(3) サクラの再生と花見空間の復活

サクラの再生を図るとともに、日本の伝統文化である花見を体感できる空間を創出する。また、来訪者へのサクラの紹介や花の見ごろ情報の発信等をボランティアと協力して行う。

< 環境・施設整備 >

- 上野公園のサクラの再生に向けた、樹勢回復や後継樹の植栽と育成
- 多種のサクラが楽しめる新たな花見の場として、上野の山で初めて江戸庶民に花見が開放された桜ヶ丘を桜の名所として復活 等

< 企画・運営 >

- 来訪者が快適に花見を満喫できるような花見のルール等について検討
- サクラを保全するボランティアである桜守によるガイドマップの作成やホ

(4) 下町情緒が感じられる親水空間の創出

不忍池とその周辺において、蓮見を楽しめる親水性を高めた池畔を整備する。また、区立下町風俗資料館と連携して展開する下町文化の習慣や祭り等を伝える催事が開催できる広場を整備する。

< 環境・施設整備 >

- 不忍池畔で休息や散策を楽しめる園路やイベント広場の整備
- より蓮見を楽しめるよう整備を行うとともに、蓮の生育環境や水質を改善等

< 企画・運営 >

- 区と観光連盟が中心となった不忍池畔の区立下町風俗資料館と蓮見茶屋等との連携による江戸下町文化が体感できる催事等の開催（再掲） 等

(5) 公園内の景観の向上と公園と調和した周辺景観の形成

文化施設と公園の連携により、公園内の景観の向上を図るほか、まちから見た上野の山への眺望や上野公園から見た街並み景観の向上等を図る。

< 企画・運営 >

- コンソーシアムにおいて、園内の看板・柵等の色彩や位置及び形状などについてデザインのガイドライン等の作成を検討
- 動物園通りと不忍池の間にある建物と公園との境界部の景観について、その向上を図るための方策について検討
- 区は、上野の山から不忍池への眺望や上野公園周辺の街並み景観の向上を図るための方策について検討
- 区が中心となり、建築物の形態や意匠及び屋外広告物の規制を強化するなど良好な街並み景観形成に向けた都民や企業との協働による取組について検討 等

(6) 歴史性を活かした魅力ある景観の再現と創出

上野公園の歴史性を感じることができる眺望点等を設定し、上野の山、不忍池、袴腰等において歴史的景観の再現や魅力的な景観を創出する。

< 環境・施設整備 >

- 支障木の整理等による江戸図絵等に描かれた寛永寺清水堂から不忍池方面への眺望景観の再現
- 不忍池畔や弁天堂から見た寛永寺清水堂や上野の山等魅力ある景観を眺望できる小広場の整備 等

3. 快適な利用の推進

(1) 公園の顔となるエントランスづくりとまちとのつながりの強化

「文化の森」にふさわしい風格を備え、来訪者が安全で快適に利用できるエントランス広場（JR上野駅公園口、袴腰等）を整備する。また、駅や周辺のまちなど外部とのつながりを高めるための取組を進める。

< 環境・施設整備 >

- 関係機関等と協力し、上野駅公園口前からの安全で円滑な歩行者動線を確保し、「文化の森」の顔として相応しい入口広場の整備について検討
- 関係機関等と協力し、江戸時代からの入口であり、まちとの結節点である袴腰とその周辺の整備について検討 等

< 企画・運営 >

- 気軽にまち歩きが楽しめる回遊ルートマップ等の作成
- 区等によるまちと上野の山の文化施設とのつながりを強化するバス等のルートを検討
- 西郷銅像下の飲食施設等については、公園へのアプローチの確保など、公園と周辺のまちとのつながりを強化 等

(2) 回遊性の向上

初めて上野公園を訪れた人が各文化施設間をスムーズに移動できるような歩行者動線を整備するとともに、誰にでもわかりやすい案内サイン等の充実を図る。

< 環境・施設整備 >

- 文化施設へのわかりやすいアプローチ動線の整備
- 初めて訪れた外国人旅行者にわかりやすいサインの整備 等

(3) 安全性の向上

公園の安全性を高めるため、老朽化した公園施設を改善するとともに、公園の管理の適正化を図る。また、災害時における避難場所としての役割を果たす公園として防災性の向上に取り組む。

< 環境・施設整備 >

- 主要な園路の照明の改善
- 誰もが利用しやすい清潔なトイレの整備
- 災害時にも利用できるトイレ等、防災機能に配慮した施設の整備 等

< 企画・運営 >

- 関係機関との連携による防犯対策について検討
- ホームレス対策の推進や違法屋台等の排除による公園管理の適正化を推進

- 歩行者の安全を確保するため、公園内における車両の通行ルール等について検討 等

(4) 公園内サービスの充実

公園における飲食利用のサービス向上を図るため、文化施設内の既存飲食施設の拡充やメニューの充実を図る。また、明るい樹林地や広場など屋外空間において、気軽に飲食を楽しめる新規サービスを導入する。

< 環境・施設整備 >

- 屋外で気軽に飲食を楽しめるとともに、それらの姿が絵になるようなオープンカフェ等の導入を検討（再掲）
- 東京都美術館の飲食施設の拡充 等

< 企画・運営 >

- 各文化施設による施設内の飲食施設の積極的なPRと提供するメニューの充実を推進 等

(5) ユニバーサルデザインの推進

園内や文化施設において、ユニバーサルデザイン化を推進するとともに、ボランティアガイド等の取り組みを推進する。

< 環境・施設整備 >

- 園内や文化施設において、ベビーカーや車いす利用に対応した段差解消やスロープ等の整備
- 都区が連携し、公園と区立下町風俗資料館相互の移動を円滑にする動線の確保を検討 等

< 企画・運営 >

- 文化施設の展示物等の多言語による解説
- 多様な言語に対応したボランティアガイドの充実
- 各文化施設において子育て世代や高齢者等、誰もが安心して利用できるベビーカーや車いすの貸出しサービスの導入 等

第4章
「文化の森」の創造に向けた
上野公園の整備イメージ

本章では、第3章で示した、「文化の森」の創造に向けた、上野公園の整備イメージを例示する。

1. 上野公園の整備イメージ

上野公園の整備を推進していくにあたって、歴史や現状の特性等を踏まえた「ゾーンとエリア」、「主軸」に分け、それぞれの整備に関する基本的な考え方を以下に示す。

(1) ゾーンとエリア

上野公園が持つ上野の山と不忍池という地形的特性を踏まえ、面的に2つの大きな『ゾーン』に分ける。

また、機能や歴史的な位置づけを踏まえ、6つの『エリア』に区分し、それぞれの整備イメージを示す。

① 上野の山ゾーン（36ページ図参照）

上野の山は、江戸時代から受け継がれてきた豊富な歴史資源と、明治時代以降の我が国を代表する文化施設が集積している。

公園のみどりの中に歴史資源や文化施設が溶け込み、「文化の森」にふさわしい空間が形成されているとともに、文化施設や大学等関係機関の連携により、魅力のある多様な文化を世界に向けて発信するゾーン。

A. 竹の台・文化施設エリア

- ・ 魅力のある多様な文化イベントの開催が可能な「文化の森」の中核となる広場を創出する。
- ・ 明るい樹林地や広場などの屋外空間で気軽に飲食を楽しむことができる場とする。
- ・ 東京都美術館の出入口の新設やアプローチの改善、恩賜上野動物園の魅力を高める正門周辺の整備等により、文化施設と公園との一体感を創出する。

B. JR上野駅公園口周辺エリア

- ・ 上野駅公園口からの安全で円滑な歩行者動線を確保し、「文化の森」にふさわしい入口広場とする。
- ・ 周辺施設と一体となった魅力的なプロムナードを形成する。

C. 寛永寺清水堂など歴史資源エリア

- ・ 寛永寺清水堂や旧寛永寺五重塔等の文化財、上野の歴史を伝える記念碑等を適切に保存する。
- ・ 江戸図絵等に描かれた寛永寺清水堂から不忍池方面への眺望景観を再現する。

D. 桜ヶ丘エリア

- ・ 上野の山で初めて江戸庶民に開放された花見の場所であり、多種の桜が楽しめる花見の場として復活させる。

E. 袴腰エリア

- ・ 上野の山とまちとの重要な結節点としてふさわしい風格ある入口広場とする。

② 不忍池ゾーン（36 ページ図参照）

不忍池は、都心に残された貴重な親水空間であり、江戸時代から庶民に親しまれた景勝地である。蓮見をはじめとする伝統的な行事・催事が行われる等、下町文化が息づく場所である。

下町文化を守り伝える活動と休息や散策を楽しめる場とするとともに、不忍池から見た上野の山の良好な景観形成を図るゾーン。

C. 寛永寺清水堂など歴史資源エリア

- ・ 不忍池畔や弁天堂から見た寛永寺清水堂や上野の山等魅力ある眺望景観を再現する。

F. 不忍池エリア

- ・ 不忍池畔で休息や散策を楽しめる園路や広場を設ける。
- ・ 蓮見を楽しめる親水性を高めた池畔とするとともに、蓮の生育環境や水質の改善を図る。

（2）主軸

上野公園において、特に重要である3つの軸線について、整備の基本的な考え方を示す。

① 袴腰と東京国立博物館を結ぶ軸

江戸時代に上野のまちから袴腰を経て寛永寺の根本中堂・本堂に至った参道が、現在でも公園の主要な動線として変わらずに機能している。また、竹の台広場の噴水越しに見る東京国立博物館本館正面のピスタは、上野公園を代表する景観として、多くの来訪者に親しまれている。

桜並木の再生を図るとともに、竹の台広場から見る東京国立博物館本館のピスタを形成し、より魅力のある景観の形成を図る。

② JR 上野駅公園口と恩賜上野動物園正門を結ぶ軸

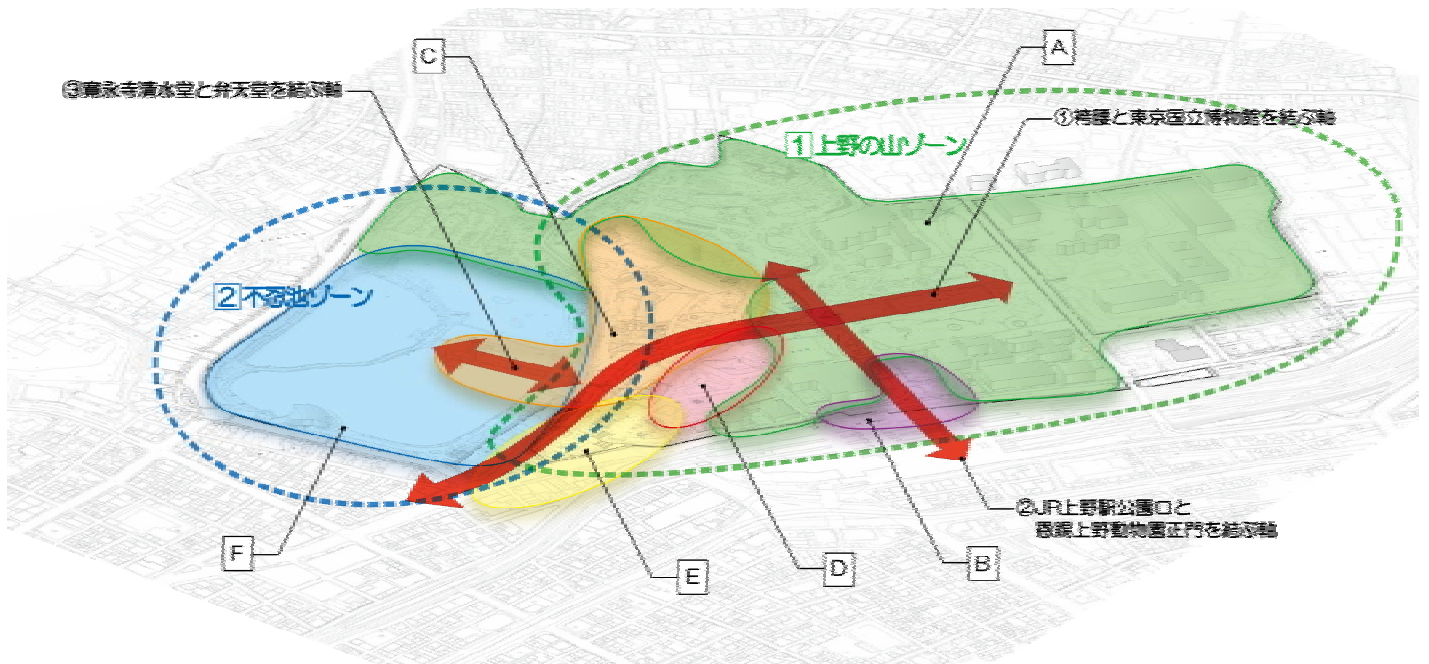
JR 上野駅公園口と恩賜上野動物園正門とを結ぶ軸は、多くの人々が利用する主要な動線であるとともに、竹の台広場で袴腰と東京国立博物館を結ぶ軸と直交する重要な軸線である。

JR上野駅からの来訪者を上野公園の中核である竹の台広場や各文化施設にスムーズに誘導するとともに、周辺施設と一体となった魅力的な景観をもつプロムナードの形成を図る。

③ 寛永寺清水堂と弁天堂を結ぶ軸

寛永寺清水堂から弁天堂・不忍池への眺望は、浮世絵にも描かれる等、江戸の名所として代表的な景観である。また、上野の山ゾーンと不忍池ゾーンを結ぶ主要な動線である。

寛永寺清水堂と弁天堂を結ぶ軸線を中心として、歴史的な景観の再現を図る。



■ゾーン

- 1 上野の山ゾーン
- 2 不忍池ゾーン

■エリア

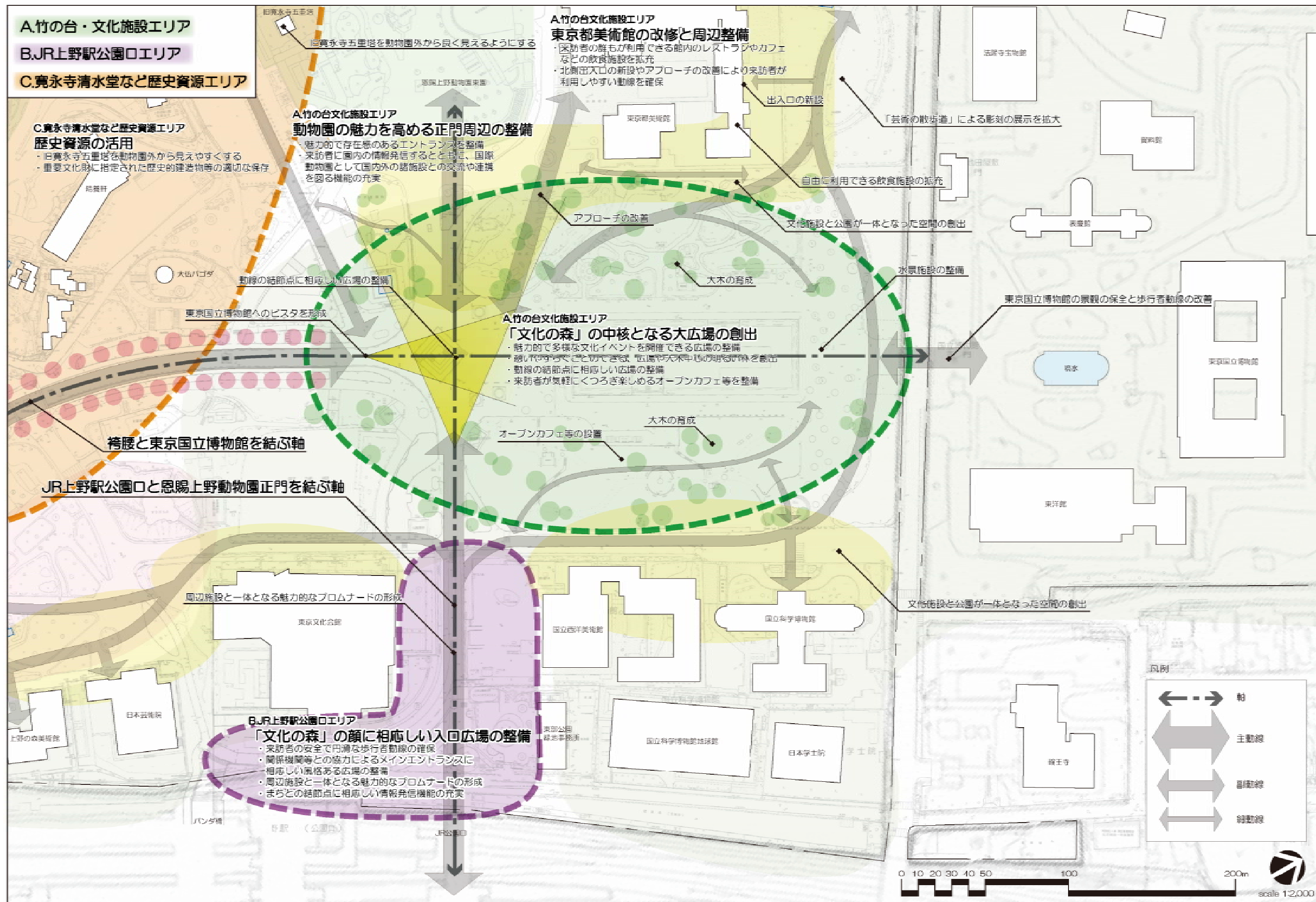
- A 竹の台・文化施設エリア
- B JR上野駅公園口周辺エリア
- C 歴史資源エリア
- D 桜ヶ丘エリア
- E 袴腰エリア
- F 不忍池エリア

■主軸

- ① 袴腰と東京国立博物館を結ぶ軸
- ② JR上野駅公園口と恩賜上野動物園正門を結ぶ軸
- ③ 寛永寺清水堂と弁天堂を結ぶ軸

図：「ゾーン」と「エリア」及び「主軸」

2. 上野公園のエリア別整備イメージ



C.寛永寺など歴史資源エリア

D.桜ヶ丘エリア

E.袴腰エリア

F.不忍池エリア

ポート池の水質の改善

上野の山を眺望する小広場の整備

蓮池の水質の改善

F.不忍池エリア

下町風俗資料館の拡充とイベント広場の整備

- ・下町風情を体感できるイベント広場の創出
- ・下町風俗の体験型展示、下町文化や芸能が堪能できる施設として整備
- ・公園と下町風俗資料館相互の移動を円滑にする動線の確保

水上音楽堂

ハスの生育環境の改善

F.不忍池エリア

下町文化を楽しめる池畔の整備

- ・遊覧を楽しめる親水性の高い池畔の整備
- ・ハスの生育環境の改善や不忍池の水質改善
- ・休息や散策を楽しめる園路の整備

E.袴腰エリア

歴史が感じられるエントランス広場の整備

- ・風情ある入口広場の整備
- ・誘導との結節点に相応しい情報発信機能を充実

三橋の遺構の展示策の検討など歴史性ある広場の整備

寛永寺清水堂と弁天堂を結ぶ軸

不忍池の回遊性の確保
不忍池の回遊性を確保するための検討を行う

崖線の樹林の保全

C.寛永寺清水堂など歴史資源エリア

歴史資源の活用

- ・江戸図録等に描かれた寛永寺清水堂から不忍池への眺望景観の再現
- ・多くの来訪者にわかりやすい歴史資源を紹介

C.寛永寺清水堂など歴史資源エリア

歴史資源の活用

- ・旧寛永寺五重塔を動物園外から見えやすくする
- ・重要文化財に指定された歴史的建造物等の適切な保存

袴腰と東京国立博物館を結ぶ軸

サクラの樹勢回復と後継樹の育成

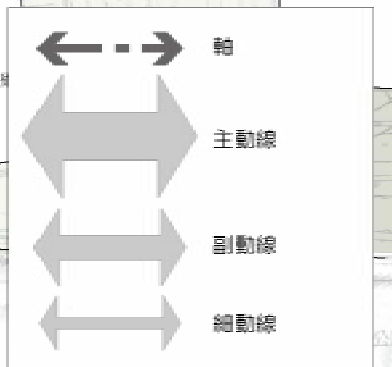
江戸時代から親しまれている清水堂からの眺望景観の再現

D.桜ヶ丘エリア

桜の名所の復活

- ・多種のサクラの植栽
- ・サクラを静かに観賞できる場の整備

来訪者の移動をスムーズにするエレベータ等の整備



A.竹の台・文化施設エリア

「文化の森」の中核となる大広場を創出 イメージパース（例）

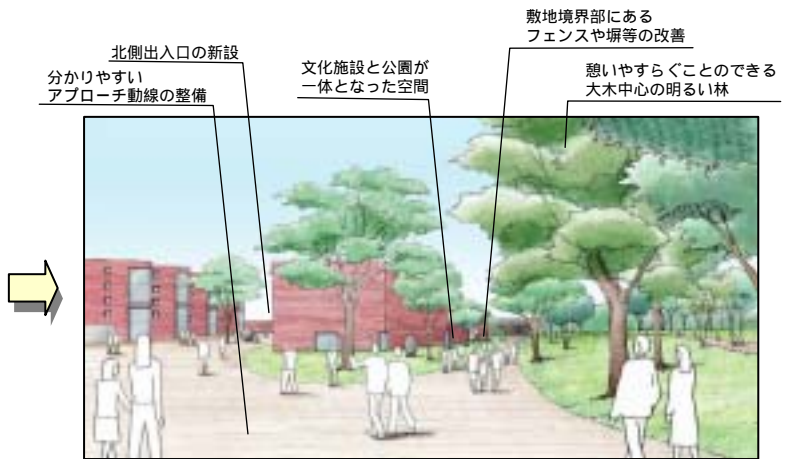


A.竹の台・文化施設エリア
文化施設と公園の一体感の創出 イメージ（例）

○現況写真と整備後のイメージスケッチ



東京都美術館周辺の現況



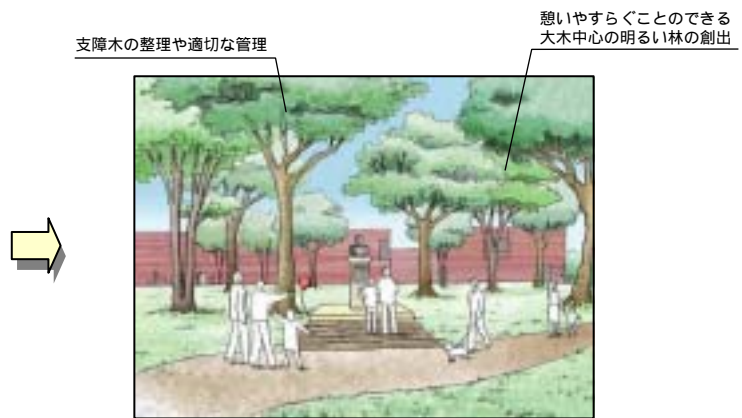
東京都美術館周辺のイメージスケッチ

A.竹の台・文化施設エリア
「文化の森」の中核となる大広場を創出
（憩いやすらくことのできる大木中心の明るい林を創出） イメージ（例）

○現況写真と整備後のイメージスケッチ



樹林内の現況



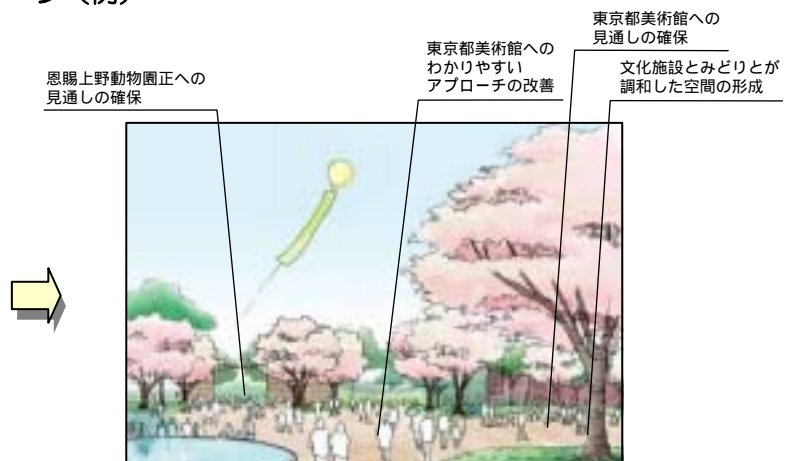
樹林内のイメージスケッチ

A.竹の台・文化施設エリア
動物園の魅力を高める正門周辺の整備
東京都美術館の改修と周辺整備 イメージ（例）

○現況写真と整備後のイメージスケッチ



恩賜上野動物園・東京都美術館周辺の現況



恩賜上野動物園・東京都美術館周辺のイメージスケッチ

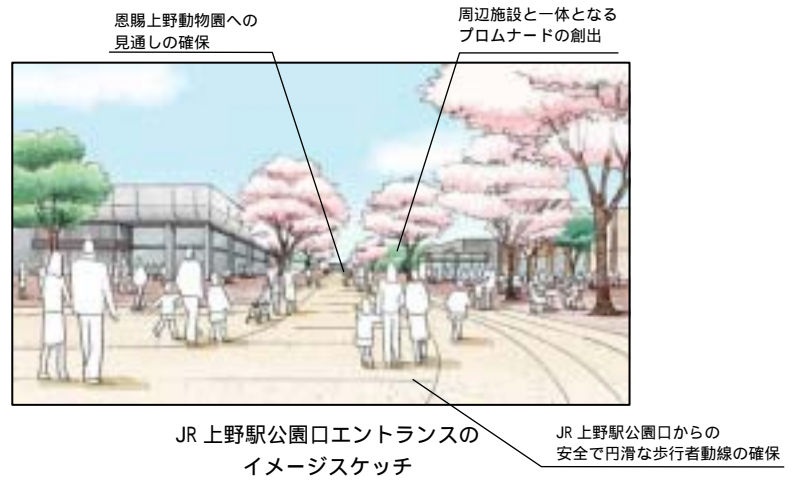
B. JR 上野駅公園口エリア

「文化の森」の顔に相応しい入口広場の整備 イメージ（例）

○現況写真と整備後のイメージスケッチ



JR 上野駅公園口エントランスの現況



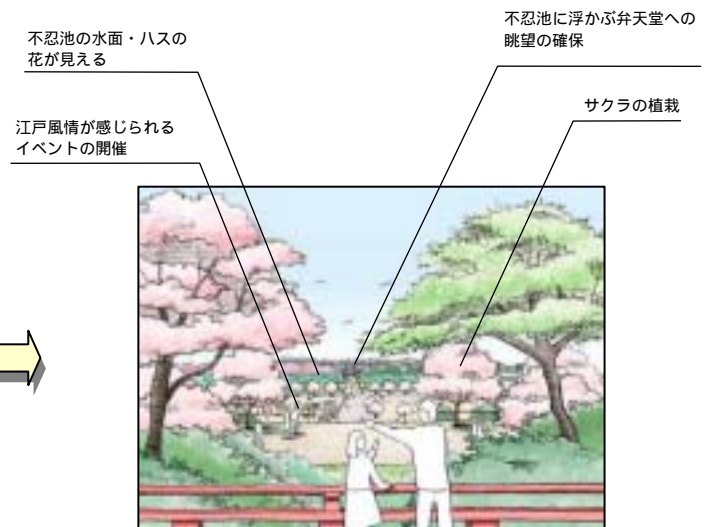
C. 寛永寺清水堂など歴史資源エリア 歴史資源の活用（歴史的景観の再現）

イメージ（例）

○現況写真と整備後のイメージスケッチ



寛永寺清水堂からの眺望の現況



寛永寺清水堂から不忍池への眺望のイメージスケッチ

第5章 提言の実現に向けて

提言の実現に向けて

(1) 提言の実現に向けて

本検討会の提言の実現に向けて、以下に示す3つの基本的な考え方に基づき、取り組むことが必要である。

① 役割分担の明確化と関係機関の連携強化

- ・ 上野公園に関わる全ての関係者が、それぞれの役割分担を明確にするとともに、相互に連携を強化するべきである。
- ・ ソフト事業の企画運営については、ミュージアムコンソーシアム（共同事業体）を設立し、取り組むべきである。そして、ミュージアムコンソーシアムの活動を段階的に発展させながら、世界に文化芸術等を発信するセンター機能を発揮させていくべきである。

② ソフトとハードの調和を図った取組

- ・ 環境・施設面での取組（ハード）及び企画・運営面での取組（ソフト）それぞれの充実を図るとともに、両面を組み合わせることで効果を最大限に発揮させるべきである。

③ 実現に向けた段階的な取組

- ・ 今後予定されている東京都美術館のリニューアル開館や現在招致活動が行われている東京オリンピック等の時期を目標として、着実に取り組むことが必要である。

年度	H20		H24	H28
主な予定			東京都美術館 リニューアル開館	東京オリンピック (予定)
上野公園における取組の実施段階	グランドデザインの検討	第1期 ・ 協働体制の確立 ・ 催事、イベントの試行 ・ 中心となる場所の整備	第2期 ・ 催事、イベントの本格的実施 ・ 主要な場所の整備	第3期 ・ 催事、イベントの発展的実施

(2) 引き続き検討すべき課題

第1章において上野公園の課題として挙げながら、将来像や10年間に取組む施策として十分に整理できなかった事項をはじめ、今後、将来像の実現に向けて、具体的な検討を進めていくべきいくつかの課題がある。これらについては、関係者間で協議の場を設けるなど、引き続き検討を進めていくことが望ましい。

- ・ JR公園口前の公園入口広場の整備（安全で円滑な歩行者動線の確保）
- ・ まちとの結節点である袴腰とその周辺の整備（周辺のまちとの回遊性を高める取組） など